

中学校第1学年
技術・家庭（家庭分野）

自分の住まいにおける就寝時の地震発生を想定し、家族の安全を考えた地震に備える方法を考え、家族に提案するための安全計画を作成する。

中学校第1学年 技術・家庭（家庭分野）「安全な住まい方～我が家の防災対策～」

■ 題材の目標

安全な住まい方についての課題を解決するために、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方の知識を活用し、地震に備えた住空間の整え方について考え、工夫することができる。

■ 題材の概要

家族の安全を考えた住空間の整え方について理解した生徒が、就寝時に地震が発生した場面を想定し、自分の住まいにおける地震への備え方を考え、家族に提案するための安全計画を立て、評価・改善することを通して、今後の安全な住まい方について考える。

■ 題材の指導計画（5時間）

第1・2時

- ・ 模擬家族とその住まいの間取りを基に、家庭内事故が起こりうる場所とその要因を考え、家族の安全を考えた住空間の整え方を知る。
- ・ 地震発生時に家庭内で起こりうる事故や事故を防ぐための工夫等について調べてまとめる。

第3・4時

- ・ 地震に備えた安全な住空間の整え方について、問題を見だし課題を設定する。
- ・ 就寝時の地震発生を想定し、起こりうる事故とその事故を防ぐ方法を考える。
- ・ 自分の住まいにおける地震への備え方を考え、家族に提案するための安全計画を作成する。
- ・ 安全計画をグループで発表し改善点を話し合った上で、全体でも共有する。

第5時

- ・ 安全計画や家族へ提案した結果を振り返って評価し、さらに安全計画を改善する。
- ・ 題材の全体を振り返り、まとめる。

■ 題材の概要

自然災害の中から地震を取り上げ、地震発生時に家庭内で起こりうる事故を防ぐための工夫等について調べてまとめた結果を、クラウド上で共有する。

就寝時に地震が発生した場合を想定し、自分の家で起こりうる事故について思考ツールを用いながら、考えまとめた結果をグループで共有する。

第2時でまとめたクラウド上の資料も活用しながら、自分の住まいにおいて、地震に備えるための工夫等について考え、家族に提案するための安全計画を作成する。さらに、グループ内で各自の計画における改善点を話し合い、全体でも共有する。話し合いや全体共有の結果も基に、自分の安全計画を改善する。

家族へ提案した結果や家族からの感想を基にした自己評価を踏まえ、グループや全体で新たな改善点等について話し合い、さらに安全計画の改善を重ねることで、今後の安全な住まい方について考えまとめる。

■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第5時）

【学習活動の場面】

安全計画を家族へ提案した結果や、家族で話し合った内容等について自己評価し、さらに、グループ内で共有するとともに、新たな気付きや更なる改善点についても話し合い、全体で共有する。その上で、さらに安全計画を改善し、今後の安全な住まい方について考えをまとめる。

【子供の「深い学び」の姿】

Aは、家族に提案した結果等をグループ内で発表した。他の生徒の話から新たに気付いたことを踏まえ、計画の改善点を考えた。

A「私の家には足が不自由な祖母がいて、夜の地震で祖母の部屋にある家具が倒れたら扉がふさがれてしまうことに気付きました。なので、家具の配置を見直そうと提案しました。家族からは、他の部屋のことも考えたら、配置を見直すのは限界があると言われたので、危ない家具を固定しようと言いました。」

B「私の家でも、家具の固定の話は出ました。あとは広域避難所について家族に説明して、どこに避難するかを確認しました。」

C「私も家族と避難の話をしたけど、父が、停電から復旧した時に電気製品が原因で火災が起こる話をしてくれて、避難する前にブレーカーを落とすことも計画に入れておこうという話になりました。」

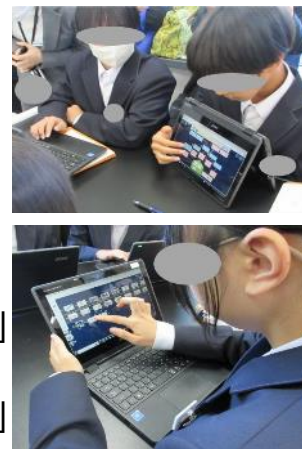
A「BさんとCさんの話から、避難の観点から計画を改善しようと思います。」
（自分の安全計画に避難の観点について追記した。）

Aは学習を振り返って次のように計画の改善を図った。

A「自分の家は、便利で快適でさえあればいいと思っていたけれど、安全も大切なんだということが分かった。もう一度家族と避難のことも含めて話し合っ、さらに家族が安全に生活できるようにするために、私から家の安全を高めることにつながると思ったことがあれば、積極的に家族に提案していきたいと思った。」

【当該指導での「深い学び」】

Aは、安全計画の作成・改善にあたり、家族の話し合いや生徒同士の意見交換等を通して計画を多角的に検討し、改善を図ることにつながった。さらに、家族の安全を考えた住空間の整え方についての考察を深めるとともに、今後のよりよい住生活の実現に向けて自ら家族に働きかけていこうとする姿が見られた。



■ 指導上の工夫と ICTの利活用

①情報共有アプリを活用し、**教科担当から家庭に対し、題材の趣旨内容について丁寧に説明することで、家庭の十分な理解を得ることができた。**こうした**家庭との連携**が効果的に学習を進めることにつながっている。

②生徒の取組に対する**家庭からのコメントを効率的に回収することが可能なICTのツールを用いることで、生徒に対する評価・改善を行う上で重要な要素を得ることにつながっている。**

【活用したソフトや機能】
ロイロノート

学習指導要領との関連

中学校学習指導要領 第2章 第8節 技術・家庭

第2 各学年の内容 〔家庭分野〕

2 内 容

B 衣食住の生活

(6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(1) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の
整え方について理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫するこ
と。

3 内容の取扱い

(3) 内容の「B衣食住の生活」については、次のとおり取り扱うものとする。

ク (6)のアについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。

また、ア及びイについては、内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び
(3)との関連を図ること。さらに、アの(1)及びイについては、自然災
害に備えた住空間の整え方についても扱うこと。